

主 催 者 挨 拶

齋藤十郎 地球環境行動会議（GEA）会長

(2013年10月18日 開会式)

皇太子同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、GEA国際会議を開催できますことは誠に光栄であり、主催者を代表して会議開催にご尽力いただいた関係各位のご努力にあらためて厚く感謝を申し上げます。

本年は、世界中で異常気象が顕著となり、わが国においても竜巻被害や過去にも例のない豪雨などが頻発し、国民生活に甚大な影響を及ぼしました。先日発表されたばかりの気候変動に関する政府間パネル、IPCCの第5次評価報告書においても、気候システムの温暖化は疑う余地がなく、その主な原因が人間活動による可能性が極めて高いと指摘しております。

人類の生存基盤である地球環境を危機に陥れているのが我々、人間の活動であるなら、人類が英知を結集して全力を尽くして危機を回避する努力をしていかなければなりません。

今回のGEA国際会議は、地球環境問題解決のために世界各国の首脳がリオデジャネイロに一堂に会して議論したりオ+20の成果を踏まえ、持続可能な未来に向かう道を探ることをテーマに開催するものであります。

世界各国から第一線で活躍している有識者をお招きし、わが国における各分野の権威者と討論していただく、文字通り、英知を結集する国際会議です。2日間の会議を通して活発に議論をしていただき、人類の未来に明るい展望が開ける方向を示して頂ければ幸いです。

今回の会議に内外からご参加くださった皆様にあらためて感謝申し上げ、主催者代表の挨拶とさせていただきます。

石原伸晃 環境大臣

(2013年10月18日 昼食会)

GEA国際会議2013にご参加の皆様、本日はようこそお越しいただきました。環境大臣として、政府を代表いたしまして心から歓迎を申し上げます。

もう私が申すまでもございますが、GEAは1991年に、竹下元総理を発起人として、政界、学界、財界と連携して、地球環境問題の解決に向けた国際世論を喚起し、提言を発信する団体として発足をされたところでございます。

これまでも世界のトップレベルの研究機関や国際機関の方々や、国際世論形成に影響力のある方々のご参加のもと、定期的に会議を開催され、また本日は齋藤会長からお聞きいたしました、ノーベル賞を受賞された著名な李先生の基調講演もあったと承知をさせていただいているところでございまして、心から感謝を申し上げたいと思っております。

今回の持続可能な開発の実現に向けた国際会議の開催に当たりまして、こちらにいらっしゃる齋藤十朗会長はじめ、多くのGEAの委員の方々のご尽力には、心から感謝を申し上げます。

今、世界各地で地球温暖化に進行に伴う深刻な影響が指摘をされております。わが国でも、猛暑や竜巻、また今週多くの方々が亡くなられた台風26号など、多くの気象災害が見られるようになりました。今年9月に発表されましたIPCCのレポートでは、今世紀末までに海面が82センチも上昇するといった可能性も報告されております。

先日、私は、地球温暖化により海面が上昇しますと、真っ先に国土が消滅するといわれておりますツバルを訪問してまいりました。海岸が実際に浸食されている島や、満潮時にはその住居の近くまで海水が押し寄せて、水の中を歩かなければならないという現実を目の当たりにしてきたところでもございます。気候変動の影響に対する脆弱性と、それに対して日本がどういう貢献をしなければならないのかということ、改めて強く認識したところでもございます。

さて、この11月には、ワルシャワでCOP19が開催されます。すべての国が参加する、公平かつ実効性のある2020年以降の新たな国際的な枠組みの構築に向けて、積極的に日本国もリーダーシップを発揮してまいりたいと考えているところでございます。

また、国内では、再生可能エネルギーを中核とした自立分散型の低炭素なエネルギー社会の実現に向けた対策を進めてまいりますし、さらに二国間クレジット制度などを通じて、わが国の優れた環境技術を積極的に海外展開し、世界全体の低炭素化に貢献してまいりたい。こんな決意を持っているところでございます。

最後になりましたけれども、今回の会議が実り多きものとなり、その成果が国際社会に向けて発信されますことを祈念させていただきます。私のご挨拶とさせていただきます。

赤羽一嘉 経済産業副大臣

(2013年10月18日 昼食会)

皆様、こんにちは。ご紹介にあずかりました、私は経済産業副大臣を務めております公明党衆議院議員、赤羽一嘉でございます。本日は私が初当選して以来、ご指導を賜ってまいりました政界の大先輩が数多くご列席の中で大変緊張しておりますが、ご指名でございますので、経済産業省を代表して一言ご挨拶を申し上げさせていただきますと思います。

まず、GEA地球環境行動会議にご参加をされている皆様におかれましては、1991年以来「地球環境問題の解決と持続可能な開発」という私たち人類にとっての最重要テーマについて、尊きご貢献をいただいておりますことに、まず心から敬意を表する次第でございます。

今回のGEA国際会議2013では、「グリーン経済を支える科学と技術」、また「すべての人のための持続可能なエネルギー」といったセッションで、全世界的な環境と経済の両立に向けて、世界各国や国際機関の有識者の皆様による活発な議論がなされると承知をしております。実り多い成果を心から期待をしております。

さて、地球温暖化対策の実効的な解決に当たりましては、温室効果ガスの排出を抑えるための技術の開発、そして普及が重要であると考えております。わが国の技術には、例えば自動車に使用する鉄を代替可能な強度を持つ炭素繊維があり、この炭素繊維を導入することで車体を約6割軽量化し、燃料の使用量を大幅に抑えることが可能でございます。2050年時点でCO₂の排出量を47億トン削減可能とのIEAの試算も出ているところでございます。また、現在開発を進めている技術として、排出されるCO₂を分離・回収し、それを地中に長期間にわたり貯留することで、大気中へのCO₂の放出を抑制し、地球温暖化を防止する技術、CCSがございます。

このような優れた技術を国際的に普及していくため、わが国は二国間クレジット制度や国際標準づくりに取り組んでいるところでございます。二国間クレジット制度は本年だけで、モンゴル、ベトナム、インドネシア等、アジアの主要国を含む8カ国とすでに署名をし、ASEANで最初の署名国となりましたベトナムとの交渉に際しましては、経済産業省の茂木大臣、そして私が現地へ赴き、直接交渉に当たらせていただきました。

また、国際標準づくりにつきましては、例えば製鉄プロセスのCO₂排出効率を適切に評価する手法を日本から提案し、国際標準化を実現いたしました。今後、こうした国際標準を活用して、日本発の技術の普及と、全世界的な排出削減が実現することを期待しているところでございます。

本年9月に、これらの具体的な取り組みを記載した「環境エネルギー技術革新計画」を決定いたしました。経済産業省といたしましては、環境エネルギー問題の克服に資する革新的技術の開発と普及に向けて、民間部門と連携し、かつ各国と協力をしつつ、さらに積極的に取り組む所存でございます。

また、10月5日に安倍総理からご提案がありましたとおり、わが国は世界の英知を結集し、イノベーションで地球温暖化問題を解決するための新たな国際会議「世界エネルギー・環境イノベーションフォーラム」を明年10月から毎年1回主催する予定でございます。

最後になりますが、今般のGEA国際会議2013を契機に、全世界規模での経済発展と地球環境への配慮の両立に向けての大きな成果が上がられますことを、重ねてご期待を申し上げまして、私のご挨拶とさせていただきます。

櫻田義孝 文部科学副大臣

(2013年10月18日 昼食会)

文部科学副大臣の櫻田義孝でございます。文部科学省を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。本日は、地球環境問題に対して高い意識を持ち、行動されている国内外の著名な皆様のご参加を得て、このような重要な会議を開催できますことを、共催者である文部科学省として、誠に喜ばしく思っております。

文部科学省では、環境・エネルギーに関する研究開発を実施し、持続可能な社会の構築に向け、科学技術の側面から地球規模課題の克服に取り組んでおります。

とりわけ地球温暖化は、先日の「気候変動に関する政府間パネル (IPCC)」の報告書で、疑う余地のない事実であると科学的に結論づけられたように、現在、国際社会が挑戦すべき最重要課題の1つとなっております。

地球温暖化の進行は地球環境を変化させ、海水面の上昇や、洪水や干ばつのような極端な気象現象の増加を招くものといわれており、持続可能な社会の構築に対する大きな脅威であります。

これらの脅威に対応するためには、国際社会が協働するとともに、学术界、産業界をはじめとした各界が一体となり、「社会のための、社会の中の科学技術」の実現に取り組むことが重要です。

先ほど開会式においてご講演いただきました国際科学会議 (ICSU) の李会長は、科学者と社会とを結びつけることを目的とし、国際枠組み「フューチャー・アース」の構築を進めておられると伺っております。

文部科学省としては、これらの国際的な動きも踏まえ、地球温暖化への適応や温室効果ガスの大幅削減等に必要な、科学技術イノベーションの創出およびその普及に取り組み、国際社会に貢献してまいります。

最後になりましたが、本会議が、人類が持続可能な未来を実現するための大きなステップとなることを期待しております。

この会議のために、ご多忙の中、さまざまな形でご尽力いただきました斎藤会長、広中事務総局長をはじめとしたGEA実行委員会、事務局の皆様にご敬意を表しますとともに、心から御礼申し上げます。私からは、これをおもちまして挨拶とさせていただきます。

高木 毅 国土交通副大臣

(2013年10月18日 昼食会)

国土交通副大臣の高木毅でございます。はじめに、本日のGEA国際会議2013のため、国内外からお集まりの皆様を心から歓迎いたします。また、準備に当たられました地球環境行動会議の皆様をはじめ、関係者の方々には心より感謝申し上げます。

国土交通省は、人々の生き生きとした暮らしと、これを支える活力ある経済社会、日々の安全、美しい良好な環境、多様性のある地域を実現するため、ハード・ソフトの基盤を形成することをその使命といたしております。環境分野では「低炭素社会」、「自然共生社会」、「循環型社会」の形成に向けて、良好な環境の保全・創出、国民が誇りを持てる美しい日本の形成のための種々の施策を講じております。

特に、運輸分野や住宅・建築物分野など、国土交通省が関連する分野からのCO₂排出量は、わが国全体の約5割を占めておりまして、低炭素社会の実現に向けて、私どもの果たすべき役割は非常に大きいと考えております。そのため、環境に対応した次世代自動車の開発や普及促進、物流の効率化、住宅・建築物の省エネ性能の向上などの個々の対策に加え、中長期的な都市機能の集約化等による低炭素まちづくりの推進等に積極的に取り組んでいるところでございます。

本日のGEA国際会議2013において、国内外の地球環境問題の専門家の皆様の活発な議論を経て、その成果が地球の持続可能な未来に大いに貢献することを期待申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

吉川貴盛 農林水産副大臣

(2013年10月18日 昼食会)

皆様、こんにちは。ご紹介をいただきました、農林水産副大臣の吉川貴盛でございます。ご挨拶は私が最後でありますから、どうぞお気遣いなくお食事を召し上がってください。

GEA国際会議2013の開催に当たりまして、斎藤会長様をはじめとして、ご関係の皆様のご尽力に心から敬意を表したいと存じます。林農林水産大臣に代わりましてのご挨拶でお許しをいただきたいと存じますが、このGEA地球環境行動会議にご列席の皆様方におかれましては、世界の人々が繁栄と健康を享受できる素晴らしい地球環境を次世代に継承するため、日頃から指導的かつ積極的に取り組まれておりますことに、深く敬意を表しております。

先日27日に、IPCC第5次評価報告書の一部が公表されました。それによりますと、世界規模で暑い日や豪雨の回数が増加をしております。その主要な要因が人間活動である可能性が極めて高い、とされております。先ほど石原環境大臣のご挨拶の中にもございましたけれども、わが国日本におきましても、今年の夏は高温、豪雨など極端な天候でございました。

このような中で、農林水産省では地球温暖化対策に貢献するため、間伐等の森林整備を進めております。さらに、国産材利用により、森林整備に必要な資金を還流し、「植える→育てる→収穫する→上手に使う」という森の循環を促進する「木づかい運動」にも取り組んでおります。

また、持続可能な農林水産業は、リオ+20でも確認されたように、貧困を撲滅すると同時に、気候変動や自然災害への回復力を強化する重要な役割を担っています。このためには、農林水産業が本来有する自然環境を促進・利用する働きを高めなければなりません。わが国では、足腰が強く競争力のある農林水産業とともに、美しく活力ある農山漁村づくりに取り組んでおります。その中で、バイオマスエネルギーを利用した次世代型施設園芸施設の導入や、公共建築物への木材利用など、循環型社会を推進しております。持続可能な経済成長を志向する本会議は、このようなわれわれの取り組みに貴重なご示唆を与えるものでもあり、大きな関心と期待を寄せているところでもございます。

終わりになりますけれども、持続可能で美しい地球をつくっていくために、本会議が実りあるものとなることをご祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきますと存じます。

かけがえのない地球を守っていきましょう。

三ツ矢憲生 外務副大臣

(2013年10月18日 外務副大臣主催歓迎レセプション)

「GEA国際会議2013」の開催に際しまして、皆様をこのようなレセプションにお迎えできますことを、大変嬉しく存じます。お忙しい中、海外を含む多方面からご出席を賜り、厚く御礼申し上げますとともに、心より歓迎申し上げます。

本日の国際会議では、持続可能性の観点から、消費と生産、都市づくり、エネルギーの諸テーマについて、活発な議論が行われたと承知します。これらはいずれも、昨年6月に開催された「リオ+20」の中心議題であった「グリーン経済への移行」にとって、極めて重要な要素です。

我が国は、ODAの実施のみならず、環境技術を用いたインフラ輸出など、幅広いツールを活用し、グリーン経済への移行に貢献しています。また、持続可能な都市づくりのあり方を議論することを目的として、明後日の20日に、北九州市で国際会議を開催します。このような我が国の取り組みが、持続可能な開発の実現に向けた一助となることを願ってやみません。

地元は三重県の伊勢市で、市内にある伊勢神宮は、今年、式年還宮という記念の年を迎えています。これは、20年毎に神様の家を新しく建て替えるもので、先日、新しい御神殿に移られたばかりです。なぜ、今、このような話をするかというと、この儀式こそが日本の持続可能な社会を体現しているからです。御神殿を建設するために使用される木は、伊勢神宮の敷地内の木を伐採し、使用しています。しかしながら、1本の木が御神殿の建設に使用できるためには80年かかるため、将来の式年還宮を見据えて植林する必要がありますが、何百年も前から、伊勢神宮は、20年毎に式年還宮を行うべく、植林、伐採、建設というサイクルを繰り返しており、まさに持続可能なものであると考えております。

本日、ここには、世界の持続可能な開発を支える諸分野について高い見識をお持ちの方々にお集まりいただいております。政府としては、世界が今、直面する諸課題に、皆様のご知見をお借りしつつ、国際社会とともに答えを見いだすべく、努めていく所存です。

最後に、本日のレセプションにご参加いただいたことに改めて御礼を申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。